

令和3年度 安曇野市食育推進会議 会議概要（要約）

- 1 審議会名.....安曇野市食育推進会議
- 2 日 時.....令和3年11月17日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場.....本庁舎 全員協議会室
- 4 出席者.....本郷会長、堀内副会長、中田委員、豊田委員、佐藤委員、藤原委員、田島委員、永井委員、寺口委員、小林委員
- 5 市側出席者.....鳥羽保健医療部長、黒岩健康推進課長、久保田センター長、高橋課長補佐、小松管理栄養士、上條管理栄養士、近藤管理栄養士、堀川歯科衛生士
- 6 公開・非公開の別.....公開
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人
- 8 会議概要作成年月日.....令和3年11月22日

協 議 事 項 等

【会議の概要】

- 1 開 会
- 2 委員の委嘱
- 3 会長あいさつ
- 4 保健医療部長あいさつ
- 5 自己紹介
- 6 協議事項
  - (1) 令和2年度食育推進事業実績および進捗状況について
  - (2) 第3次食育推進計画目標達成のための意見交換
  - (3) 第3次食育推進計画の延長について
  - (4) その他
- 7 閉会

【協議概要】

- (1) 令和2年度食育推進事業実績および進捗状況について
 

(事務局) 資料-1に基づき令和2年度食育推進事業実績および進捗状況について説明。

(委 員) 今年度についてだが学校教育課で手作り弁当の日を小中学校全17校で実施しているという事で嬉しく思っている。また、食育の一環として自然栽培米を給食に1回使用と書かれているが、週に何日米飯か。産地はすべて安曇野産か。今後、市がお金を支払い有機米の回数を増やしていく予定はあるのか。

(事務局) 米飯は4日/週。お米は100%安曇野産米を使用。有機米については、今年は全小中学校で1回使用している。来年度以降の有機米の使用については未定。

(会 長) コロナ禍で中止になったものが非常に多かった中、高血糖予防教室で体重やヘモグロビンA1Cの減少が数値としてあらわれていて良かった。低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制についてだが肥満でも低栄養の人が多いため、BMIとアルブミンに指標をおけば一人当たりの医療費の削減に繋がるのではないか。

(事務局) 計画策定時は血清アルブミンの検査は未実施だったが昨年度から実施している。今後、安曇野市はどうか検討していきたい。
- (2) 第3次食育推進計画目標達成のための意見交換
 

(事務局) 資料-2に基づき安曇野市の幼児健診から、早寝、早起き、朝ごはんを考えるについて説明。

(委 員) 3歳児の朝食ということで、保育園に通わせている方が多いと思う。朝、家事等で忙しいのはよく分かる。孤食というのも、親が近くにいる環境だと思うがどうか。

(事務局) 完全に1人で食べている子どもはほとんどいない。親が家事をしたり兄弟と食べていたりしている家庭も多かった。

(委員) 今のお母さん達は仕事をもって、昭和の専業主婦と違ってゆとりがない。今の流行は時短になっている。ゆとりを持ってじっくり料理ができない状況。そこが社会環境として1番の問題。お母さん方を責めるようなことはしてほしくない。

(会長) 親を責めているわけではなく、そういう世の中。何か良いアイデアはないか。

(委員) 3歳のデータと小中学校では違ってくる。3歳だと親の要因が大きいが中学生だと本人の都合が入ってくる。時短がブームというよりは必要に迫られている。今の働くお母さん達のライフスタイルを肯定的に理解してもらい、理想だけでなくモチベーションの上がる内容の案を出してもらいたい。

(会長) 行政だけでなく市民の方も巻き込んで現実的に実行できるかどうか考えて欲しい。

### (3) 第3次食育推進計画の延長について

(事務局) 資料-3に基づき第3次食育推進計画の延長について説明。

(会長) 2017年と2011年くらいを比べても達成率が変わっていない。現実可能な目標であるか。実現されていないのであれば適切な目標かどうか。もっと行政が主導して啓発活動をした方がよいか。市としてどうなのかを考え、安曇野市民を対象に調査してはどうか。

(事務局) 3次計画の評価、4次計画に繋げていくにあたって、県民栄養調査、国民栄養調査などのデータを参考にしながら計画策定にあたっては考えていこうと思っている。

(委員) 県民健康栄養調査は3年に1回長野県で県民の健康状態を調査するもの。該当する調査対象の市町村は無作為で抽出する為、必ず当たるわけではないが、事前に市で調査を計画したいとの事であればそれを含めて計画する事も可能かもしれない。県の食育計画は来年度が最終年、評価作業がある。その次の年度から新しい計画になるため市とも整合性をはかりながらしていきたい。

(会長) 連携してやっていただければ素晴らしいデータが出ると思う。期待が持てる。

(委員) 第4次食育推進基本計画の中に学校給食における地場産物を活用した取り組みを増やすと書いてあるが、例えばどういう地場産物を増やしていくのか。

(事務局) 実際に使っている物、方針については説明できない状況だが、野菜だと思う。進捗管理表では農作物と書かれている。

(委員) 味覚の授業を毎年安曇野市でおこなっている。安曇野市で作っている野菜を子ども達に提供したい。安曇野市で採れた野菜を提供できる場所を教えてください。

(事務局) 農産物については農林部に確認し伝えたい。

### (4) その他

(委員) 女性が家事で忙しいのはよくわかるが親が食べないというのが気になる。子どもは親の背を見て育つという。第4次で朝食を欠食する国民を減らすと関係するが、PTAなどで何かの方法で取り上げてもらい親も食べるように出来ないものか。

(会長) 食育は作って食べるだけでなく食べる状況や親子の関係など、絆について周知啓発などを強く推し進めていかないといけない。

(委員) 子どもが興味を示しているのをみると親もしっかりしなくてはと自覚する。子どもが食べてみて五感で感じて親に伝えるのが有効。小学校と安曇野市の農業、給食センターなどと連携をとり、親と子どもと双方にアプローチをしていく事が大切。

(委員) 子どもだけでなく、高齢者の食生活についてももう少しアプローチが必要ではないか。高齢者は一人暮らしの方が多く、肥満の方も結構いる。みえない栄養状態はどうなのか。高齢者についても対策が必要ではないか。

(会長) 「サキベジ」にしたらかかずに食べられないという人がいて本末転倒。世代によって適切な食生活が大切。アルブミンの数値が低くなり始めたら正常範囲の人でも管理栄養士を主体として食の啓発活動を個別でしていく事が大切。

(事務局) 今年度から高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業に取り組んでいる。個別保健指導の対象に低栄養の方も加えている。管理栄養士が訪問し対応している。対象者は健診を受けた中からの抽出になる為、生涯現役で健診を受けてもらいたい。

(会長) 素晴らしい取り組みをしているので結果に繋がると良い。

※会議概要は、原則として公開します。